

F 4 ミシンによる曲線縫いの指導に関する研究(第1報)

高知大教育 ○田村和子 朝長ちはる

大阪市大 田中道一

目的 衿ぐりや袖つけの曲線縫いは直線縫いの経験しかない生徒達にとって容易ではなく、時間がかかるので製作意欲がうすれがちである。カーブに沿った美しい縫い目線は手と足の動きの調和から得られるもので、合理的な曲線縫いの指導が必要である。本研究では女子大学生を対象に実際の袖山の型に近い曲線を用いて実験を行ない、合理的な曲線縫いの指導法に対する指針を得ようとした。

方法 被験者の選定は女子大学生13名を対象とした。目標曲線は21×300cmの白紙に、波長50cm、振幅3、6、9、12、15cmの5種の正弦曲線を描いて用いた。使用ミシンは足踏みと電動の二種で糸をつけずに1cm当り4.5目の針目で空踏みさせ、時間と目標曲線からはずれを測定した。

結果 大学で1年間被服実習を受講した者5名を熟練者、被服実習を受講していない新入生を初心者とした。

1)時間と熟練度：足踏みミシンの場合では熟練者の方が短時間であるが、電動ミシンの場合では初心者の方が時間が早くなる。また熟練者は足踏み、電動ともほぼ同じ時間であるのに対して、初心者は電動になると時間が早くなることがわかった。

2)はずれと熟練度：熟練者の場合は電動、足踏みともはみ出しが小さいのに対して、初心者の場合は電動ミシンの方がはみ出しが大きいことがわかった。

3)時間とはずれの関係：時間が早くなるほどはみ出しが大きくなることがわかった。

研究に際して御指導を賜りました高知大学中村治助教授に心からお礼申し上げます。